

令和4年度 大阪府立旭高等学校 第1回学校運営協議会

日時：令和4年6月27日（月）15時30分～17時00分

場所：本校会議室

出席者：学校運営協議会委員 梅原直人 上江洲弥生 佐藤章子 原田沙織

本校より校長 教頭 事務長 首席2名 教員9名

1 校長挨拶

今年度はスクールミッションの策定が求められている旨説明があった。

2 学校運営協議委員紹介、事務局紹介、実施要項等確認、会長等選出

・会長等選出 会長 関西大学 森 勇太先生 副会長 旭陽中学校長 辰巳千佳子先生

3 学校経営計画と現状報告

4 各分掌の取り組み

○進路指導部 ○生活指導部 ○保健部 ○図書教養部 ○情報部

5 協議「旭で伸ばす」の目標に向けて（司会 梅原先生 以下、敬称略）

○報告への質問

・図書教養部の海外語学研修は中止という報告があった。修学旅行は国内か？

→今年度の修学旅行は国内で決定済。現1年生は台湾で計画している。来年度以降に海外へ行けるような取り組みを検討する。

・進学関係の数値が大きく上向いている。要因は？

→昨年以前も上向きだったが、昨年度は大きく上向いた。

環境的な要因が2つある。①18歳人口の減少により受験者数が減った上で、②大学が新設学部を設けたり合格定員を増やしたりしたため間口が広がった。

また公募で合格した生徒を見て一般に挑戦する生徒が出る、などの相乗効果が起こるクラスの雰囲気できていた。コロナ禍を経て学校生活に真摯に向き合う姿勢ができていたのかもしれない。

・保健室への来室後、体調は改善するのか？

こころとからだを健康にするための知識を学んで自分の人生に活かしてほしいのだが。

→行事の時期にタイムマネジメントが苦手になって心身に不調をきたし、来室が増える。「ほけんだより」の発信はしているが、今後も発信の仕方を考えていきたい。

・小学校では、自己有用感を高める取組みを行っている。自己有用感が身につくと、次は何をするか、意欲的に動けるようになる。自尊心だけでは傷ついたときに立ち直りにくくなるが、自己有用感ならばしなやかな心になっていくと思う。

→保健室でも似たような取組みをしていた。

・小学校では SDGs について取り組んでいるが、旭高校ではどのような取組みをしているか。

→2 年生の探究で取り組んでいる。1 学期に各自テーマを決めて調査し、2 学期にアンケート等の調査を進め、自分の仮説があっているか検証する。冬に校内発表をしたり、論文を書いたりする。今年度は 1 年生でも導入している。

→ただ調べるだけではなく、「私達は個人として何ができるか」を考えさせることを最終目標としている。何かしらのアクションプランを立てさせようとしている。

○「旭で伸ばす」の目標に向けて

・中学校長時代に旭を目指す生徒はもちろんいた。生徒たちは、情報収集や自己申告書を作るために学校の Web ページをよく見ている。アドミッションポリシーを読んだとき、その向こう側に「旭高校でなれる自分の姿」がイメージできればいい。

・旭高校の吹奏楽部が記念行事で演奏しているのを見た中学校の吹奏楽部が心を打たれて旭高校の吹奏楽部に入りたいと思って進学した子どもたちが多い。

・「社会的な期待」でいうと、旭高校は人気校だという印象がある。旭高校に対する周囲や地域の目は期待でいっぱいだと思う。どんなイメージか、振り返ってみるとよいのでは。

→オープンスクールなどが子どもにとっての基準になるかもしれない。

・中学生が見て簡単に理解できる言葉を使い、中学生でも伝わる内容を書いたほうが絶対にいい。「旭に入学したらこんなふうになれるのだ」とイメージできるようなスクールミッションを書いてもらいたい。

・学校への意見書については、現在提出されていない旨、報告があった。

6 校長謝辞

・スクールミッションについてより具体的にイメージすることができた。どのような取組み、魅力があるか、より具体的にイメージできるような言葉を探していきたい。

・しなやかな心づくり、数値化はできないが大切なこと。今後どのように育成していくか保健部と考えていきたい。

7 諸連絡（事務局）